



## アートで、生きていく

RANKさん



キャンバスいっぱい描かれたカラフルな絵画。力強くインパクトがありながら線や陰影が緻密に描かれ、見る者の目を引きつけます。描いたのは、高校3年生のアーティスト・RANKさん。高校入学後から活動を始め、現在は関東のプロデュース会社に所属し、個展・グループ展のほか、企業とのコラボ展示に参加するなど、精力的に作品を生み出しています。市民美術展では、昨年度市長賞を受賞し、今年も50号の作品2点を出品します。

幼い頃から絵を描くことが得意で、小学生の頃絵画教室で4年間、描画の基礎を学びます。中学生になつてからはデジタルで個性あふれるイラストを描き始め、SNSを通して見せたクラスメイトからも好評を得ていたと話します。

高校が決まり、自分がこの先何をしたいか真剣に考えたときのこと。人と話すことが苦手な自分が、描いた絵を通して人とつながり、思いを伝えられてきたことに気が付きます。「自分は、絵で食べていく」と決意し、家族からも「楽しいと思える人生に」と背中を押され、高校生活の傍ら、アーティスト・RANKとしての人生が始まりました。

手書きのアクリル画による現代アートで勝負することを決め、自身の作品のコンセプトを「愛と命を大切にすること」に据えます。作品のキャラクターに描くハート型の瞳にその思いを乗せ、作品全体を幸せな空気で包みます。作品に登場する、左耳の欠けたクマ「ドウトウ」。RANKさんはこのキャラクターを「誰にでもコンプレックス(耳の欠け)は同等にあつて、それはときには魅力にもなるということ」を伝えたい」と語ります。

同世代で活動する作家は少なく、作品の売り込みも相談も自ら行いいますが、相手はすべて大人。話すことが苦手を選んだ絵の道でしたが、大人の社会でやっていくには会話が不可欠だったと振り返ります。「アートの世界は本当に難しい。けれど、王道がないこの道はものすごく楽しい」と話します。16歳での決意を行うに移した3年間。経験した楽しさも不安もすべて作品の糧にして、アーティスト・RANKの世界はますます広がります。



▲キャラクターのフィギュアも制作。

### cover

アローブで、韓国文化に親しむイベント「まるっと韓国文化体験デー」を開催。韓国の絵本や伝統遊びに触れ、会場は笑顔に包まれました。大府市と洪城郡の交流の歩みを写真で振り返りながら、世代を超えて韓国文化を楽しむ一日となりました。

